

りんご並木と人形劇のまちいいだ

魅力再発見



●観光に関するお問い合わせ

観光案内所 TEL.0265-52-2946

●中央道高速バスのご予約

信南交通 TEL.0265-24-0007

株式会社 飯田まちづくりカンパニー

〒395-0045 長野県飯田市知久町1丁目10番地

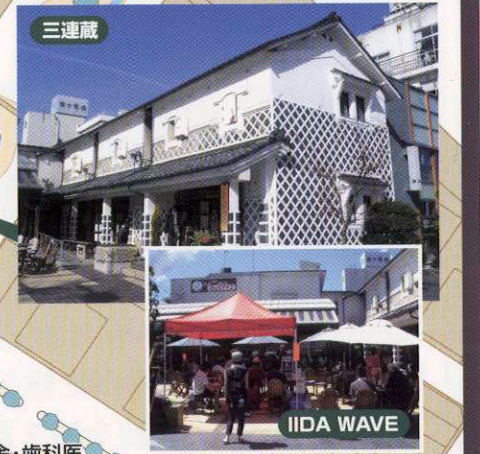
TEL.0265-21-1212

FAX.0265-21-1252

ホームページ <http://www.machikan.jp/>

Eメール machikan@idnet.or.jp

tmo@machikan.jp



飯田市街地の歴史

はじめに

この地域に比較的大きな集落が生まれたのは、今から800年程前、源頼朝が鎌倉に幕府を開いた頃からです。当初はJR飯田駅の北側を中心に形成されていきました。室町時代後期になると現在の愛宕神社付近に飯坂城が築かれ、小規模な城下町が誕生しました。その後、飯田城主が現在長姫神社のある場所に飯田城を築き居を移すと、町の人々もこれに従って移り住み、現在の町並みが形成されました。

京都の街並みになって

天正18年(1590年)、兵農分離によって武士は全部城下に居住することになり、城下町の整備が進められました。まず追手門の西に向かって直線的に道をつくり、本町1、2丁目が生まれ、さらに、京都の街並みになって町筋を正し、大横町、上横町、下横町(現在りんご並木のある通り)などがつくられ、碁盤の目のような街並みが形成されていきました。



飯田市の大火災を松尾堀割坂より望む



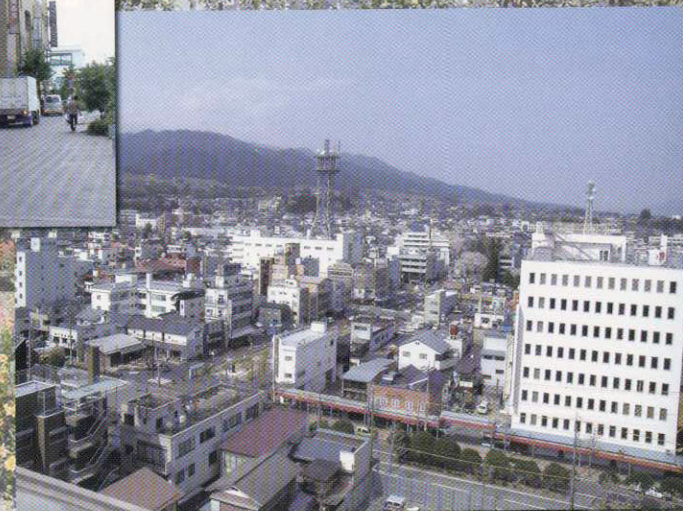
猛火に追われる必死の消火活動

飯田市の大火

昭和22年、敗戦直後の困難な時期に中心市街地は、その大半を焼失する大火に遭遇しました。以前から飯田は火災の多い町で、明治以降これまでに数十戸以上焼失した大火が6回もありましたが、この大火は全焼戸数4,010戸、焼失面積451,000㎡という有史以来の大火災で、小京都と言われた美しい町は、碁盤の目のような街路だけを残して焦土と化しました。



飯田城絵図 下伊那教育会蔵



ノーモア大火

大火を機に、徹底的な防火対策と近代的な都市計画を立てるべきという機運から「飯田市火災復興都市計画事業」として次のような復興計画が立てられ実施されました。



裏界線

◆飯田市復興都市計画基本方針

- (1) 飯田市の火災の経験並びに風致上の見地から、市街地の南部、段丘の突端は公園または緑地として保存する。
- (2) 階段状の割地は極力整備し、同一平面とする。
- (3) 市街地を東西南北三本の防火帯で分割し、その中央に防火用水(水路並貯水槽)を設置し、防火機能の拡充を図る。
- (4) 旧来の用水を整備し、これを防火用水として完全利用を図ると共に市街地に貯水池を設置しこれを連絡する。
- (5) 旧来の街路面積は僅かに市街地の5%に過ぎず、著しく建築密度が過大であったから、街路、公園防火帯等の公共地を市街地面積の25%程度とし、別途建築制限と相まって適切な空地の確保を図る。
- (6) 割地の裏界線を連続形としてここに通路を設け、常設の利用は勿論防火活動に資する。

◆第二措置

- (1) 焼失地域並びにこれと一帯の地域、約227,850坪の地積に対して都市計画面画整理事業を実施し、急速且つ円滑なる実現を図る。
- (2) 土地区画整理の実施に当たっては建築物の復興を容易ならしめる為速やかに土地使用区域を指定する。これが為従来の地積は実測によらず土地台帳地積を基準とする。
- (3) 原則として府県道の外の事業は市に於いて実施する。(3ヶ年間)
- (4) 完成目標時期は昭和25年3月とする。

「ノーモア大火」を合い言葉に、市民も私有地の2割無償提供などして通り町・中央通りなど各町の道路の拡幅、並木通りの防火帯、各地の地下貯水槽設営などを実施。また、城下町の特徴である裏界線を活かした新しい都市計画による防火都市として生まれ変わり、現在に至っています。